

足羽 英樹（あしば ひでき）

職名	
----	--

(令和3年4月から現在)

令和3年4月、教育職出身の教育長として事務局教育次長から就任。任期満了後、令和6年4月から引き続き教育長に就任し、「自立して心豊かに 幸せな未来を創造するふるさとととつりの人づくり」を基本理念とする本県教育を推進すべく、本県教育行政を指揮している。

また、毎年、市町村首長・教育長を訪問し、喫緊の教育課題について、直接意見交換を行うなど、市町村との連携・協働による教育行政の推進に努めている。

進級時の学級規模拡大による学級の不安定化解消、一人一台端末環境下での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や多様な学習環境に対応するため、既に実施していた小学校1、2年生の30人学級に加え、全国に先駆けて令和4年度から段階的に小学校3年生から30人学級を導入し、令和7年度に公立小学校の全学年において30人学級を実現した。

G I G Aスクール構想により、令和3年度からすべての公立小中義務教育学校において本格的に一人一台端末の活用が始まることを受け、デジタル教材の整備や市町村教育委員会及び公立小中学校の教員へ指導助言等を行うICT教育指導員の配置等を行い、学校教育の情報化を加速した。また、県立高等学校全日制課程において令和4年度から令和6年度まで学年進行で一人一台端末を導入するとともに、基盤となるネットワーク回線の強化や各種トラブルや問い合わせに対応するG I G Aスクール運営支援センターを設置した。

県立倉吉東高等学校において、グローバル人材の育成を目指す国際的な教育プログラムである国際バカロレアの認定を目指し、施設設備の改修や教員の研修等、指導に適した環境の整備を推進し、令和４年９月に日本海側の公立学校では初めて国際バカロレアの認定校として認められた。令和５年度に一期生が入学し、２年次から国際バカロレアによる教育が始まった。

「誰一人取り残さない」という強い思いを持って学びの充実に取り組み、eラーニング教材や自宅学習支援員を活用した自宅学習支援や、不登校の未然防止、早期支援のための学校生活適応支援員の配置や校内サポート教室の設置、拡充を行い、多方面から不登校児童生徒等の学習機会を確保した。

あわせて、様々な理由で中学校での学びを得られなかった方の学び直しの機会を確保するため、柔軟な時間割の設定や施設整備等の開校準備を進め、中国地方で初となる県立の夜間中学を令和6年4月から開校した。

全国的な教員不足を受け、志願者の増加を図るため令和５年度の教員採用試験からインターネット広告の導入や、全試験区分において第一次選考試験を関西で受験できるよう関西会場を拡充した。さらに採用辞退者を減少させるため、令和６年度から採用予定者懇談会を開催し、スムーズに教員生活をスタートできるよう担当者への相談や新規採用予定者同士の交流等ができる場を新たに設ける等、教員の人材確保を図った。

近年の大量退職・大量採用に伴う教職員構成の変化を見据え、小中学校において、持

続可能な校内人材育成システムの構築を目指した「とっとりメンター方式」を初任者研修の一環として導入し、メンターである校内の若手教員と初任者がともに学ぶチーム研修を通じて初任者の育成と同時に若手教員の資質向上も図っている。

○文化芸術に係る取組

鳥取県の長年の懸案であった文化芸術の創造と発展の中核地点となる県立美術館の開館準備を進め、令和4年1月から公立美術館としては全国初のPFI手法により建設に着工し、開館までの間、県民や県内の美術館等の参画・協働を図り「県民立美術館」の実現を進めるとともに、県民参画の対話会や建設現場見学会等の全県に渡る戦略的な機運醸成やどこに住んでいても美術館サービスを楽しむ環境づくりに取り組みながら、令和7年3月に県立美術館を開館した。特に、学校教育との連携に重点を置きながら、幅広い年代や障がいのある方などすべての人々の「アートを通じた学び」を支援するため、教育普及の調査研究・事業実践を行う「アート・ラーニング・ラボ」機能を充実させた。その中でも、鳥取県内全ての小学校4年生を毎年美術館に招待する「ミュージアム・スタート・バス」の取組は、本物の作品を学芸員と対話しながら鑑賞することで、観察力、思考力、コミュニケーション力が身につく新たな学びを実践している。

被表彰者の略歴及び主な功績

井田 博之（いだ ひろゆき）

職名	元 日吉津村教育委員会教育長 (平成28年6月から令和7年3月)
功 労 の 内 容	<p>○学校教諭としての功績 昭和54年鳥取県西伯郡淀江町立淀江小学校に奉職して以来、長きにわたり教育実践を積み上げた。平成元年から4年間にわたり鳥取県教科指導員（音楽）を務めるなど、専門性を発揮し、多くの後進育成と指導力向上に邁進した。</p> <p>○教育行政職員としての功績 鳥取県教育委員会事務局指導課指導主事、小中学校課指導主事、西部教育事務所管理主事、同指導係長を歴任し、平成18年に西部教育局初代局長に就任。西部地区の各市町村教育委員会と連携し、広く学校教育に貢献した。</p> <p>○校長としての功績 平成16年4月、鳥取県立皆生養護学校長に任命され、その高い識見と鳥取県教育委員会事務局在職当時の経験を基にして、職員と共に幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるよう支援する学校を目指し、特別支援教育の専門性、指導力と実践力の向上に尽力した。障がいのある幼児・児童・生徒の教育の充実に努めるとともに、個々の障がいの状態や能力に応じたきめ細かな就学指導にあたった。また、保護者の教育に対する意識を高揚し、学校経営に邁進し、幼児・児童・生徒はもとより保護者、教職員から厚い信頼を得た。</p> <p>平成17年11月に開催された第51回全国肢体不自由教育研究協議会鳥取大会では、実行委員長としての責を担い、卓越した指導力と実行力を発揮し、大会を成功に収めたことは、教育関係者から高い評価を得た。</p> <p>平成24年4月に、西伯郡伯耆町立岸本中学校長に就任し、それまでの実践と経験により蓄積した確かな理論をもとに、授業改革を土台とした効果的な学校運営の開発と発展に取り組んだ。まず、同校では「凡事徹底」を行動規範として実践し、「あいさつ・返事・時間励行・履物揃え・立腰（姿勢）」の凡事が徹底できるよう、生徒、職員と共に取り組み、建設的で推進力のある校風の維持と発展に努めた。「当たり前のことが立派にできる。」「平凡なことを非凡に努める。」現代の教育に求められている教育理念そのものであり、その姿勢は、保護者、地域、教育関係者から高い評価を得た。</p> <p>また、同校では「学校の組織力向上」のため、校内研究と学校評価をリンクさせた組織づくりに取り組み、教職員の経営参画を核とした組織の活性化を図った。学校の重点目標を「授業づくり」とし、「目標の連鎖」を意識して中期目標を校内研究の研究主題に転移させ、短期目標を授業づくりの内容として設定し、職員間のアイデアの交流を軸に個々の想像力と組織の創造性が高まるよう実践した。また、学校評価については、それらの目標・課題を共有し、取組状況についての情報交換を行い、次の行動を生み出していく組織づくりのツールとして活用した。</p> <p>この取組は、この力を引き出す卓越したリーダーシップと明確な経営方針の提示から成り、教職員を個から組織的な教育集団に変化させたことは言うまでもなく、その指導力・実践力は教職員の模範となった。</p> <p>平成23年度には鳥取県中学校長会会長としてリーダーシップを遺憾なく発揮し、中四国校長研究大会を開催県として 成功に導くほか、教育課題の克服に尽力するとともに、鳥取県教育の充実・進捗と発展に大きく貢献した。</p> <p>○教育長としての功績 平成28年6月から令和7年3月まで日吉津村教育長の任を務めた。学校教育において、基礎・基本の定着を目指し、職員の授業力向上に尽力し、児童の学力が大幅に向上した。令和3年度には、コミュニティ・スクールを導入し、先進地域の取組を学び、運営協議会委員の選定や、運営協議会実施方法、地域住民と協働した学校教育活動の実施等、日吉津村で活用できる取組について具体的に示唆した。また、熟議のテーマ及び熟議後に意見を教育に反映する方法について運営協議会に助言し、学校・家庭・地域が目</p>

<p>標を共有しながら取り組むシステム構築に努め、子どもも地域も元気になる学校づくりを推進した。また、村の文化・芸術の振興にも尽力し、「日吉津村音楽祭」を立ち上げ、現在まで6回開催するなど、村の社会教育、生涯学習の発展にも大きく寄与した。</p>

被表彰者の略歴及び主な功績

尾室 高志（おむろ たかし）	
職名	元 鳥取市教育委員会教育長（平成２９年４月から令和６年９月）
功 の 内 容	<p>○功労全般 前教育長の任期を引き継ぎ、平成２９年４月１日に鳥取市教育委員会教育長に就任以来、豊富な行政経験から培われた卓越した見識により、教育の充実や郷土愛の醸成、健全な体の育成など、「ふるさとを思い 志をもつ人づくりを進め、夢と希望に満ちた次代をひらく」を基本理念とする同市教育の実現に努めた。</p> <p>○学校教育の推進 任期中に４校の義務教育学校を開校するなど小中一貫教育のさらなる推進に尽力した。また、平成３０年４月より学校給食費及び指定補助教材費の公会計化と学校徴収金システムを導入し、学校現場の多忙化解消を図った。 また、令和４年度からは、市立小・中・義務教育学校、市立幼稚園において「やってみよう！でー（day）（体験的学習活動等休業日）」を導入し、コロナ禍で大きく制限を受けた体験活動、家庭や地域でのふれあいの機会を取り戻す事業をスタートし、子どもたちの家庭や地域での活動の機会の創出を促進する取り組みを行った。</p> <p>○社会教育の振興 市民スポーツの拠点である鳥取市民体育館をＰＦＩ事業により、令和５年度に新築、また史跡鳥取城跡の復元整備において擬宝珠橋、中ノ御門表門の復元及び渡櫓門の復元への道筋をつけるなど、市民スポーツ環境の確保や文化の薫るまちづくりの整備を最前線において担った。 また、図書館の分野においては、令和４～８年度を計画期間とした、鳥取市視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画（鳥取市読書バリアフリー計画）を策定し、令和６年３月には、声優やナレーターが読み上げた音声を耳で楽しむ音声コンテンツである「オーディオブック」を県内初導入し、読書バリアフリー環境を先駆的に推進する旗振り役を担った。</p>